

委託事業実施内容報告書

平成20年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日系人等を活用した日本語教室の設置運営】

受託団体名 特定非営利活動法人 愛伝舎

1 事業の趣旨・目的

平成 19 年度行った事業に引き続き、ブラジル人学校EAS鈴鹿校で「生活者としての日本語教室」を行いたい。この事業を行うことで日本の社会に暮らしながら、日本人に対して距離をおいて暮らすブラジル人学校の生徒たちの姿に触れることとなった。日本に暮らすことが不本意で、日本人に対してあまり良い印象を持っていない子どもも少なくない。また日本に来て保護者は長時間働き、ブラジルにいたときのように周りの大人と密にコミュニケーションをとる時間がなく、淋しい思いをしていることを実感した。そのような子供たちに対して日本人の友達を作り、日本の文化に触れながら、日本に対する関心を高め日本語の学習の意欲を高める授業を行いたい。

この事業がブラジル人学校で行われていることを広く地域社会に紹介し、三重県で外国人の子供たちが暮らし育っていることを多くの日本人に理解してもらう。それによりボランティアや地元の小学校との交流が生まれ、社会とのつながりを築いていきたい。

また、日本人側からの働きかけだけでなく、ブラジル人側の「共生」に対しての意欲や関心を高めていくために、ブラジルのメディアとの連携を進める。EAS校は日本にあるブラジル人学校の最大手で、ブラジルコミュニティとの窓口になるような存在であり、この学校を通じてブラジル人とのネットワーク作りに繋げたい。

年少者の外国語学習を進める上では、日本語や日本に対する興味関心を高めることが重要であると昨年度の事業から学んだ。様々な出会いを通じ、子どもたちに日本語学習を「楽しいこと、好きなこと」と感じてもらい、日本語の力をつけさせていきたい。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	出席者	議題	会議の概要
7月1日	坂本久海子 米川綾 鷹巣雅英 宮崎みさ(椿小学校) 山田幸子(〃)	- 今年度の授業目標 - 内容確認 - 椿小学校との交流	- 授業日程計画 - 授業の進め方 - プレースメントテストの実施 - 椿小学校との交流計画、椿小学校との

			打ち合わせ日程
7月6日	坂本久海子 米川綾 鷹巣雅英 カヤシマニウセ	・ 今年度の授業打ち合わせ ・ 生徒募集 ・ 椿小学校との交流について	・ 週一回木曜日の2時～4時に授業を行う ・ 全日制の生徒を募集する。人数は15人前後。 ・ 椿小学校と今年も交流を行う。
11月5日	坂本久海子 米川綾 鷹巣雅英 カヤシマニウセ	・ 授業の確認 ・ 椿小学校の交流について ・ 鈴鹿市小学校音楽祭	・ 歌を使った授業の成果について ・ 子どもの習熟度の確認 ・ 鈴鹿市の小学校音楽祭で歌う歌の確認
11月20日	坂本久海子 米川綾 鷹巣雅英 宮崎みさ 山田幸子	・ 椿小学校の交流 ・ 音楽祭の打ち合わせ	・ 12月4日の椿小学校への交流の段取り ・ 予定、プログラム、運転手確認 ・ 交流を通しての日本語学習
12月18日	坂本久海子 米川綾 鷹巣雅英 カヤシマニウセ	・ 授業の確認 ・ 交流会の反省 ・ 音楽祭の打ち合わせ	・ 歌を使っの日本語学習の効果 ・ 子ども同士の交流を通じて、どちらも日本語、ポルトガル語の学習が進んだ。 ・ 日本の子供がブラジルの子どもを温かく迎えてくれて有難い。

			・ 音楽祭の前に椿で合同練習を行う。
1 月 15 日	坂本久海子 米川綾 鷹巣雅英 カヤシマニウセ	・ 椿小学校交流打ち合わせ ・ 音楽祭の打ち合わせ ・ 生徒の状況	・ 合同練習の打ち合わせ（時間、運転手） ・ 椿神社参拝を交流後に行く。 ・ 1月23日の鈴鹿小学校音楽祭の参加確認（時間・運転手） ・ 生徒の帰国、転出が増加し、今後の授業参加者をどうするか。 ・ カヤシマ校長は帰国し、ベルジニア校長に代わる。
2 月 5 日	坂本久海子 米川綾 鷹巣雅英 ベルジニア	2 月以降(新学期)の授業予定について。 3月迄新しい生徒を受け入れるか。 椿ワールドの参加について 音楽祭の感想	・ 生徒数約 380 人→約 200 人までに減少。 ・ 日本語教室の生徒も、クラス編成が変わり時間変更する。希望者は3月までも受け入れる。 ・ 約 20 人が参加。Drはチアゴ先生。 ・ 日本の学校の交流は大変いい機会だった。
3 月 27 日	坂本久海子 米川綾 鷹巣雅英	・ 授業の反省、感想	・ 指導方法、指導内容、指導体制の確認 ・ 日本語の歌から学ぶ効果は大きい。

			歌の有効性 ・ 挨拶、礼儀の学習 ・ 日本の学校に転入する生徒にとっての日本語学習の場になった。 ・ メリハリのある授業の運営をする。 前半・活動、コミュニケーション 後半・学習、書写 ・ 椿小学校との交流はお互いにとって心に残るものであった。 ・ 能力別授業の充実を進める。 ・ 学校の変動期で、連携が難しかった。
--	--	--	---

3 日本語教室の開催について

① 日本語教室の名称

たのしい日本語 Vamos aprender juntos ! 2

② 開催場所

鈴鹿市道伯 5-23-29

エスコーラ・アレグリア・ジ・サベール(EAS)鈴鹿校

③ 学習目標

子供たちにとって、日本語を学ぶことは楽しいこと、好きなことと感じられる授業を行う。

暮らしの中で必要な日本語を優先的に「activity」活動で行い、実際に使ってみようと思える、会話学習をする。

文字については、ひらがな・カタカナの読み、書きができる。

漢字は1年生の漢字80字の学習をする。(読めることを中心)

会話は「みえこさんのにほんご」の12課から35課

今年の授業を通し、子供たちが積極的に日本人と話をしようとする、好奇心と、自信をつける。

④ 使用した教材・リソース

みえこさんのにほんご

みんなの日本語

暮らしの中に日本語

漢字だいすき

オリジナル教材・・・ひらがなのうた

Tudo é vida すべていのち 他

⑤ 受講者の募集方法

ブラジル人学校 EAS 鈴鹿校の生徒を対象にしたため、学校の先生を通じて募集を行った。

⑥ 受講者の総数 36 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

⑦ 開催時間数(回数) 68 時間 (全 35 回)

⑧ 日本語教室の具体的内容

回	開催日	時間数	国籍・母語（人）	教授者 補助者	内容
1	7月17日	1時間	ブラジル国・ポルトガル語（以下 同じ） 9人	教・1人 補・1人	導入テスト
2	7月24日	1時間	11人	教・1人 補・1人	あいさつ リレーゲーム
3	7月24日	1時間	11人	教・1人 補・1人	あいさつ文書写 歌
4	7月31日	1時間	11人	教・1人 補・1人	ひらがな学習
5	7月31日	1時間	11人	教・1人 補・1人	フラッシュカード
6	8月7日	1時間	11人	教・1人 補・1人	数字学習 歌
7	8月7日	1時間	11人	教・1人 補・1人	ひらがな学習 書写
8	8月21日	1時間	10人	教・1人 補・1人	歌 自己紹介
9	8月21日	1時間	10人	教・1人 補・1人	自己紹介練習・紹介書写
10	8月29日	1時間	8人	教・1人 補・1人	歌 買い物ゲーム カード

11	8 月 29 日	1 時間	8 人	教・1 人 補・1 人	ひらがな かたかな
12	9 月 4 日	1 時間	12 人	教・1 人 補・1 人	歌 買い物ゲーム カード
13	9 月 4 日	1 時間	12 人	教・1 人 補・1 人	ひらがな かたかな 漢字
14	9 月 11 日	1 時間	13 人	教・1 人 補・1 人	歌 買い物ゲーム カード
15	9 月 11 日	1 時間	13 人	教・1 人 補・1 人	ひらがな かたかな 漢字
16	9 月 18 日	1 時間	11 人	教・1 人 補・1 人	歌 言葉 自己紹介
17	9 月 18 日	1 時間	11 人	教・1 人 補・1 人	交流会 (EAS 校で毎日ある日 本語クラスと)
18	10 月 2 日	1 時間	11 人	教・1 人 補・1 人	歌 言葉カード 漢字
19	10 月 2 日	1 時間	11 人	教・1 人 補・1 人	漢字 ひらがな濁音
20	10 月 9 日	1 時間	10 人	教・1 人 補・1 人	歌 買い物練習
21	10 月 9 日	1 時間	10 人	教・1 人 補・1 人	椿小との交流会説明
22	10 月 17 日	1 時間	10 人	教・1 人 補・1 人	マクドナルドで買い物
23	10 月 17 日	1 時間	10 人	教・1 人 補・1 人	マクドナルドで買い物
24	10 月 22 日	1 時間	10 人	教・1 人 補・1 人	歌 買い物ゲーム
25	10 月 22 日	1 時間	10 人	教・1 人 補・1 人	歌 みえこさんの日本 語 9 課
26	10 月 30 日	1 時間	10 人	教・1 人 補・1 人	歌 語彙カード
27	10 月 30 日	1 時間	10 人	教・1 人 補・1 人	交流に向けて自己紹介 書写
28	11 月 6 日	1 時間	10 人	教・1 人 補・1 人	歌 寸劇練習

29	11 月 6 日	1 時間	10 人	教・1 人 補・1 人	交流に向けて自己紹介 書写
30	11 月 13 日	1 時間	6 人	教・1 人 補・1 人	椿小学校への手紙 書写
31	11 月 13 日	1 時間	6 人	教・1 人 補・1 人	歌 寸劇練習
32	11 月 20 日	1 時間	10 人	教・1 人 補・1 人	歌 寸劇練習 自己紹 介
33	11 月 20 日	1 時間	10 人	教・1 人 補・1 人	月日 数字
34	11 月 27 日	1 時間	7 人	教・1 人 補・1 人	自己紹介 プレゼンテーション
35	11 月 27 日	1 時間	7 人	教・1 人 補・1 人	月日 数字 椿小の手紙
36	12 月 2 日	1 時間	10 人	教・1 人 補・1 人	交流会リハーサル
37	12 月 4 日	1 時間	10 人	教・1 人 補・1 人	椿小学校交流
38	12 月 4 日	1 時間	10 人	教・1 人 補・1 人	〃
39	12 月 4 日	1 時間	10 人	教・1 人 補・1 人	〃
40	12 月 12 日	1 時間	8 人	教・1 人 補・1 人	交流振り返り 手紙書き
41	12 月 12 日	1 時間	8 人	教・1 人 補・1 人	歌書写 みんなの日本語 L1
42	12 月 18 日	1 時間	9 人	教・1 人 補・1 人	歌 お礼の手紙
43	12 月 18 日	1 時間	9 人	教・1 人 補・1 人	月日 数字 歌の言葉
44	1 月 8 日	1 時間	5 人	教・1 人 補・1 人	歌の書写 絵事典 お正 月
45	1 月 8 日	1 時間	5 人	教・1 人 補・1 人	月日 数字 反対の言葉
	1 月 15 日	1 時間	5 人	教・1 人	歌の書写清書

46				補・1人	
47	1月15日	1時間	5人	教・1人 補・1人	反対の言葉 動詞（ゲーム）
48	1月16日	1時間	6人	教・1人 補・1人	椿小学校合同練習
49	1月16日	1時間	6人	教・1人 補・1人	〃
50	1月21日	1時間	6人	教・1人 補・1人	歌 練習感想 反対の言葉
51	1月21日	1時間	6人	教・1人 補・1人	動詞（ゲーム）反対の言葉
52	1月23日	1時間	5人	教・1人 補・1人	鈴鹿市音楽祭出場
53	1月23日	1時間	5人	教・1人 補・1人	鈴鹿市音楽祭出場
54	2月5日	1時間	5人	教・1人 補・1人	ひらがなテスト
55	2月12日	1時間	3人	教・1人 補・1人	ひらがな学習
56	2月12日	1時間	3人	教・1人 補・1人	ひらがな学習
57	2月19日	1時間	13人	教・1人 補・1人	ひらがな・カタカナ学習
58	2月19日	1時間	13人	教・1人 補・1人	ひらがな・カタカナ学習
59	2月26日	1時間	13人	教・1人 補・1人	ひらがな・カタカナ・漢字学習
60	2月26日	1時間	13人	教・1人 補・1人	ひらがな・カタカナ・漢字学習
61	3月13日	1時間	8人	教・1人 補・1人	ひらがな・カタカナ・漢字学習
62	3月13日	1時間	8人	教・1人 補・1人	ひらがな・カタカナ・漢字学習
63	3月18日	1時間	8人	教・1人 補・1人	ひらがな・カタカナ・漢字学習

64	3月18日	1時間	8人	教・1人 補・1人	ひらがな・カタカナ・漢字学習
65	3月25日	1時間	13人	教・1人 補・1人	ひらがな・カタカナ・漢字学習
66	3月25日	1時間	13人	教・1人 補・1人	ひらがな・カタカナ・漢字学習
67	3月26日	1時間	14人	教・1人 補・1人	ひらがな・カタカナ・漢字学習
68	3月26日	1時間	14人	教・1人 補・1人	ひらがな・カタカナ・漢字学習

⑨ 特徴的な授業風景(2～3回分)

⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
米川アンジェリカ綾	ポルトガル語(ブラジル国)	16年	68回	授業補助, 通訳

⑪ 支援者の名簿(⑦以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
坂本 久海子	NPO 法人 愛伝舎 代表	小学校教員 2 種免許 国際教室担当 8 年	68 回	コーディネーター
米川 綾	NPO 法人 愛伝舎 副理事長	小中学校指導助手 8 年	28 回	コーディネーター
鷹巣 雅英	NPO 法人 愛伝舎 ボランティア	幼小中高等学校教員 1 種免許	7回 19回	アドバイザー コーディネーター
宮崎 みさ	椿小学校教諭		2回	アドバイザー
山田 幸子	椿小学校教諭		2回	アドバイザー
カヤシマニウセ	EAS 鈴鹿校校長 (2009.1 月まで)		4回	アドバイザー
ベルジニヤ	EAS 鈴鹿校校長 (2009.2 月から)		1 回	アドバイザー

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

この教室を最初から最後まで参加できた生徒は 1 人であった。この生徒については、ひらがな、カタカナと 1 年生の漢字まで学習できた。前年度から引き続き参加した生徒は、カタカナ、漢字も学習できた。今年に入って短期的に参加した生徒は、2 ヶ月間の間でひらがなの読み書きまで学習することができた。

会話については、椿小学校のこどもたちとの交流を通じ自己紹介や簡単な会話の実践を行えた。また買い物にでかけ自分で買い物ができる練習を繰り返した。日本の中のブラジル社会にいて日ごろ日本人と接する機会が少ない子どもに実践の機会を通して、日本語への興味、関心を持ってもらうことができた。

この事業を通して、日本の子供、ブラジルの子どもが日本語、ポルトガル語で歌う曲をつくることができ共に歌う曲ができた。この歌が今後、多くの人の中で育っていくことを願っている。

(CD と、楽譜は郵送します。)

② 学習者の習得状況

7 歳から 12 歳の年齢の幅のあるクラスで、子供に応じた習得となった。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果

事業を行った、EAS 鈴鹿校では今年度から従来の月謝とは別に月額 8400 円で希望者には、日本語の授業を毎日行うようになった。私塾扱いのため学費が高く、日本語学習の希望はあっても、受講しない生徒もあり、無料で日本語を学習する機会を歓迎された。昨年度から引き続き学習した生徒は、椿小学校のこどもたちとの交流を楽しみにしていた。日本に暮らしているとはいえ、日常生活は日本語にふれることはほとんどない生徒にとって、週 1 回の授業は、日本の小学校で英語を学ぶような環境だと思い、公立校の取り出し授業とは異なるものとして進めた。2008 年末から、日本の公立校に転入する子供が出てきて、日本の学校に入る前にひらがなや、歌、単語などを学んでいけたことは、子どもにとってもいい準備になったように思う。

④ 地域の関係者との連携による効果、成果 等

地域での連携については、昨年度に引き続き鈴鹿市立椿小学校のこどもたちと交流をさせてもらった。日本語や、日本人に直接ふれることの少ない子どもたちにとって、同世代の友達を作ること、生きた日本語の学習になる。また不本意ながら日本に来たという思いや、日本人に対してマイナスのイメージを持つ子どもが、ブラジル人学校では少なくないことを考え、日本の子供たちとの交流を通して、日本語に対する興味、関心をもつことも狙いとした。今年は鈴鹿市の小学生の音楽祭に、椿小学校のこどもたちと一緒に参加させてもらい、日本語とポルトガル語の歌を歌うことが出来た。子どもたちにとっては、日本語を学ぶ意欲が高まり、楽しい活動になったように思う。また、音楽祭の様子は、NHK 津放送、鈴鹿市ケーブルテ

レビ、ブラジルメディア・IPC 放送でも報道され、日本社会にも、ブラジル人社会にも伝えることができた。昨年からの経済の悪化で、日系社会は大きなダメージを受けているが、子供たちの交流を通して、共生の意識は浸透しているように思う。

⑤ 改善点、今後の課題について(具体的に記述する。)

a. 現状

昨年からの景気後退でブラジル人学校の生徒は激減している。そのため今年に入ってから、日本語教室の生徒も帰国や日本の学校への転出をした。EAS 校鈴鹿校では、昨年春から通常の授業料とは別に徴収し、日本語教室を行って多くの生徒が日本語を学習していたが、辞めた生徒も多数あった。それらの生徒の中で、日本語学習する生徒も多く、2月から3月の時期だけでも熱心に参加した。またこの事業が3月で終わったため大変残念がり、大粒の涙を流して、淋しがる子どもが複数あった。ブラジル人を取り巻く環境は大変厳しく、ブラジル人学校の生徒の今後の不透明で、4月以降ブラジル人学校にどれだけの生徒が、通学できるかどうか分からないし、ブラジル人学校の存続も厳しいのが現状である。

b. 今後の課題

日本語に普段触れることのないブラジルの子どもたちが、週一回日本語を学習するのは、日本の公立学校での日本語の学習のように進められない。子どもたちが日本語に興味、関心を持つような工夫がいる。また年齢や理解度が違う生徒にあわせた授業を行うには少人数での対応が必要で、教授者の数を増やす必要を感じた。

日本語教室の生徒の数人は途中地元の小学校へ転出した。日本の学校で勉強する前に、ひらがな、カタカナを学習できたことは子どもにとってもプラスであったと思う。日本の学校に行く準備の日本語教室でなく、日本語に興味関心を持ってもら教室運営を考えたい。

また学校の縮小や、教師の移動などがありブラジル人学校の先生方との連携をしっかりと取る必要も感じた。

c. 今後の活動予定、展望

今年の事業を通して、子どもたちの心に残ったことは椿小学校の子どもとの交流であった。椿小学校の子どもにとっても、同じ町に住む外国人の子供に対して親しみを感じ、共生の心を育てることができたように思う。日本語学習は、日本人との交流を通して進み日本語ができることでお互いの交流、共生が進むような活動にしていきたい。

③その他参考資料